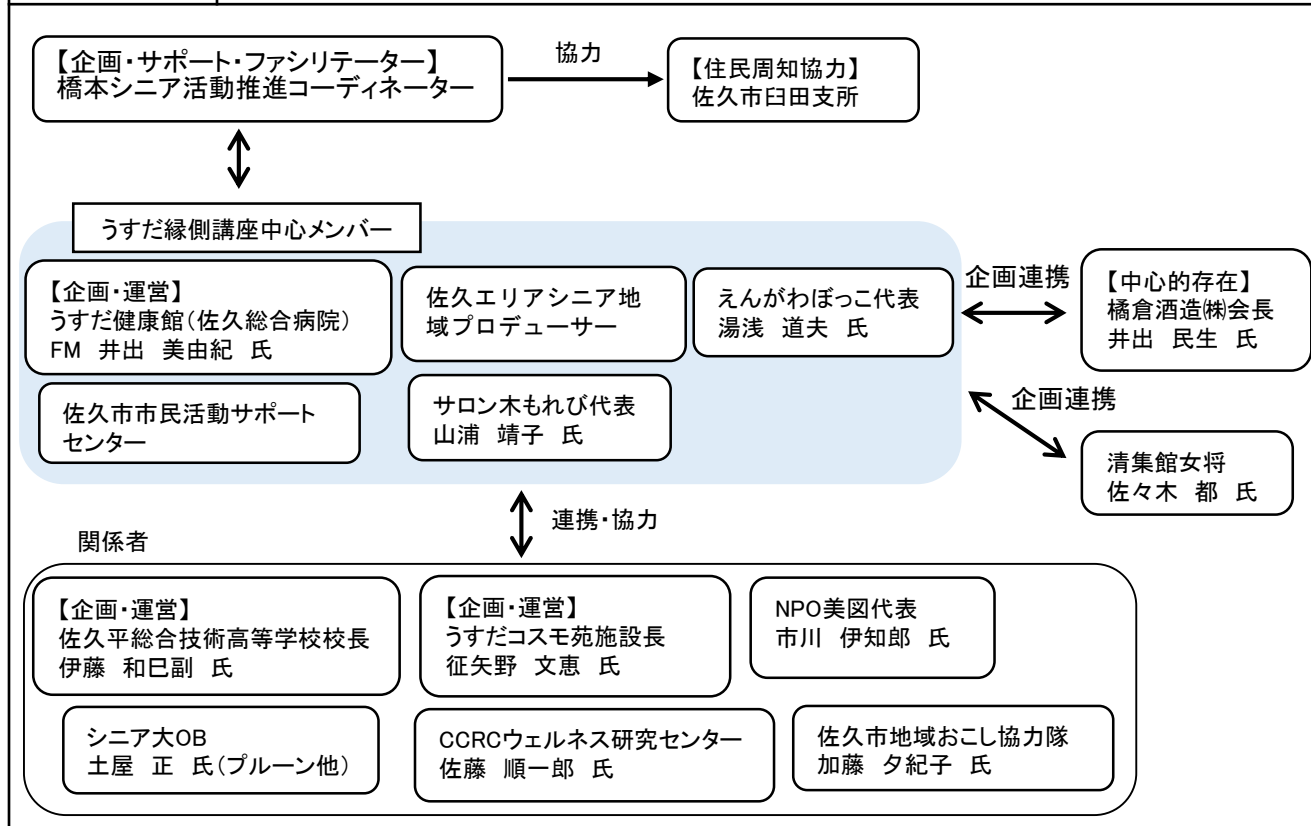


【事例3】 うすだワールドカフェ（地域の対話の場）について

取組開始年月	平成29年12月（まちの縁側講座 in 臼田から）
取組概要	住民主体の社会参加活動を促すため、対話を通じた学びの場の提供とアイデア創出を図っている。
発表者	・橋倉酒造株式会社社長 井出 民生 氏 ・公益財団法人長野県長寿社会開発センターシニア活動推進コーディネーター 佐久支部 橋本 昭弘 氏



1 取組の背景

- 誰でも参加できる地域づくり講座「縁側講座」で出会った方々は、地域に対する熱い思いを抱いている！地域のために何かしたいと考えているが具体的な活動に結び付いていない。
⇒ 地域の中で、お互いの活動を知る対話の場をつくる必要がある。
- 縁側講座により地域資源(ヒト・モノ・コト)が多い地域であることを発見。
- 住民主体の思いを大切にしながら、住民主体の活動を根付かせていきたい。



○ 住民が対話できる場「うすだワールドカフェ」の開催

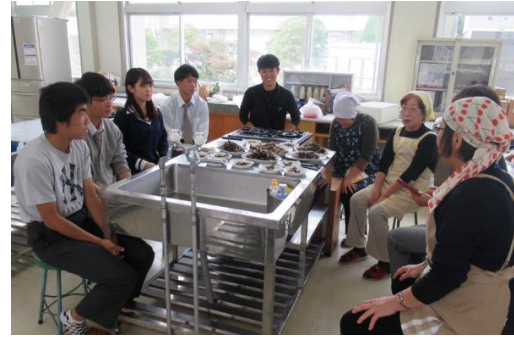


2 取組を進める上での課題・対応

- 住民の主体性を大切に、合意形成を図りながら進めることが大切。
3回の打合せを経て、うすだワールドカフェの企画内容「10年後の臼田を考える」に合意をいただく。
- 関係者全員が主催者の立場で、共同開催により、うすだワールドカフェを開催。

3 成果

- 住民主体性を高めるため、対話の場（互いを知り、地域を知り、一緒に未来を語る）をつくることで、地域の団体とつながり、若い世代を巻き込んで協同企画が生まれた。
 - 佐久賛助会「手づくなの会（手芸）」うすだコスモ苑へお手玉の寄贈
 - 佐久平総合技術高等学校生徒と「うすだコスモ苑」入所者が交流
 - 佐久平総合技術高等学校を中心にJA等とイベントの連携
 - 佐久平総合技術高等学校公開講座に地域住民が参加
 - 佐久平総合技術高等学校と橘倉酒造株式会社が連携した甘酒作り



4 苦労した点や工夫した点

- 「ワールドカフェ」とは、複数の少人数グループ単位で対話を行い、他のテーブルとメンバーをシャッフルして、対話を続けることで、参加者全員の意見や知識を集めることができる対話の方法。参加者一人一人の自由で本質的なアイデアは多く集められるが、一つに集約するのは難しい。
 - ⇒ 一方、うすだワールドカフェでは、対話で出たアイデアを再度共有し、実現可能なアイデアを收拾することで、自然発生的に関係者が連携し、共同企画が生まれた。

5 今後の方向性・課題

- 多様な世代(子育て世代、若者、学生等)が参加できるワールドカフェの開催
- 地域の実情に合わせて、地域ごとに対話の場をつくる
- 地域でコーディネートを担うキーパーソンの発掘・育成